

令和元年度
白根北児童館事業報告書

I 令和元年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

昨年度に引き続き、今年度も南区内だけでなく西区や中央区、秋葉区等様々な地域から多くの乳幼児親子が来館されました。友達の紹介やホームページなどで知ったという方が多く、また今年度は、秋葉区の子育て中の保護者向け冊子に白根北児童館を紹介して頂いたことから、秋葉区からの利用者も増えました。また、新規来館者数が記録開始以来過去最高数になり、児童館を求めている需要を強く感じました。特に今年は父親だけが子どもを連れての利用や、保護者1人で2～3人の乳幼児を連れて来館する家庭が多く、ワンオペの現状を目の当たりにしました。そこで職員が今まで以上に子どもと関わるよう心掛け、保護者の身体的負担を減らし、子ども自身の満足度を高め、加えて職員が保護者の精神的フォローもできるように話す時間をできる限り設けました。積極的に職員が保護者や子どもと関わることで、その子どもの様子を見に来た親に今までの様子などを話すと「家では～している」など家庭での様子や背景が見えてきて、それぞれに必要な支援が具体的に出来るようになったと思います。

今後もそのような点を大切に利用者一人一人と関わり、それぞれ個々の必要な関わりを大切にしていきたいと思っています。

① いちごタイム（工作タイム・農園の活動）

毎週火曜日の10時30分から概ね20分程度、乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は主に入園前の乳幼児を対象としていますが、夏休みや春休み中は保育園児や幼稚園児の参加も多く、とても賑わっていました。内容は主にお返事遊びや手遊び歌、親子の触れ合い遊び、絵本の読み聞かせ、季節に因んだ遊び、体操等を提供してきました。参加組数は平均3～10組で、月齢は1～2歳児が多かったです。最初は慣れずに活動に参加すること自体が難しかった子でも、回を重ねる毎に徐々に他の友達と一緒に参加できるようになったり、できなかった手遊びができるようになったりと1年を通して成長を感じることができました。

また、いちごタイムの中に『工作タイム』や農園での活動も取り入れてきました。『工作タイム』では、紙コップや風船、画用紙など様々な題材を使って親子で簡単なものを制作しました。子どもたちはシールを貼ったり、クレヨンで自由に描いたりと楽しみながら参加していました。農園の活動では、じゃがいもやさつまいもの苗を植えたり、収穫したりして土と親しむ機会を設けました。子どもたちがより興味を持って参加できるように、事前にペープサートや遊びの中でじゃがいもやさつまいも掘りの擬似体験をすることで、実際に外で活動する際、スムーズに行うことができました。また帰りにお土産として持ち帰ってもらったりもしました。

② ホット・ほっとタイム・幼児絵本タイム

毎月第3木曜日の10時30分から1時間程度、子育て中の保護者を対象とした『ホット・ほっとタイム』を開催してきました。子育て中の保護者にコーヒーや紅茶を飲みながらホッと一息つける時間を持ってもらうと同時に、子育て中の悩みや喜びを共有してもらっています。保護者がテーブルでゆっくりとお茶を飲んでいる間、子ども達は好きな玩具を持ち寄って自由に遊んでいます。職員も子どもの見守りに入ったり、保護者が気軽に話せるような雰囲気作りや橋渡しを行ったりしてきました。ホットほっとタイムの前には、『幼児絵本タイム』を設け、0

～3歳児向けの絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。子どもたちは保護者の膝の上に座り、絵本を観ていました。

③ ママのためのハッピータイム (ママハピ)

子育て中の母親に少しでも HAPPY な時間を過ごしてもらおうと3年前から実施した『ママハピ』は恒例行事となり、今年度は5回の実施となりました。毎年好評の「足つぼマッサージ」は母親たちの強い要望で5月と12月の2回開催にし、どちらもキャンセル待ちが出る程の人気でした。継続して同じ講師のため、複数回参加されている方はよりリラックスして施術を受けていました。7月と9月には、常連で来られている母親達のリクエストで「フォトスクラップ」と「スイーツデコ」を行いました。「フォトスクラップ」は、台紙に我が子の写真を貼り、周りにシールや絵を描いてデコレーションしていくものです。「スイーツデコ」は建築用シリコンをクリームに見立て小物入れなどに絞り、その上に紙粘土などで作ったケーキやマカロンなどのパーツをつけていくものです。どちらも作業工程は単純ですが、参加された母親たちはこだわりながら時間をかけて完成させていました。11月には、農園で採れたさつまいものつるを使って「クリスマスリース作り」を行いました。リース作りは毎年実施していますが、昨年度からリースの形も自分で作り、飾りのパーツも自然素材のものを利用しており、今年は大人気で予約があつという間に埋まりました。どの回も、参加された方々は皆、生き活きとした表情でリフレッシュしているようでした。イベント後のアンケートからは「子どもと一緒に楽しめる内容で嬉しいです」「いつも楽しみしています」等の声が聞かれました。普段子育てで忙しい中でも、ほんの一時、このように自分だけの時間が持てることで、新たな気持ちで子どもと向き合えるのではないかと思います。来年度以降も希望を聞きながら開催できればと考えています。

④ ちびっこ運動会

毎年家族連れでの参加が多い『ちびっこ運動会』は今年度も14組38名の参加がありました。対象は未就園児ですが、日曜日開催だったこともあり普段保育園に通っている子や兄弟も複数名参加しました。最初に全体で記念撮影をした後、音楽に合わせて親子で入場行進を行いました。子どもたちは、保護者と手をつないで、入場行進時に配布したボンボンを振り、これから始まる運動会にわくわくしながら笑顔で行進していました。その後、今年大流行の「パプリカ」を体操代わりに踊り、「かけっこ」、「うちのママ知りませんか」、「玉入れ」、「パンくい競争」など様々な競技を楽しみました。最後に一人一人にメダルと初めに撮影した記念写真をプレゼントすると、子どもたちは嬉しそうな表情を見せていました。今年も、両親や祖父母も一緒に参加されている家族が多く、競技に参加する方と、カメラやビデオ撮影をされる方でバランスよく分かれていました。当日イベントを知らずに遊びに来館した乳幼児親子にも途中参加できる競技を考え、参加してもらいました。最後職員が見送った際に聞いた意見では、「未満児が主役の運動会で子どもの成長を感じるシーンが何度もあった」、「すべての競技が楽しかった」等が聞かれました。今後も『ちびっこ運動会』の必要性を感じました。

⑤ にゃんこの手 (オーエンジャー☆みなみ)

子育てオーエンジャー☆みなみは、研修を受けたボランティアの方々が子育て中の母親に対して、お茶やハンドトリートメントなどを提供しながら母親の悩みをサポートするボランティア団体です。現在南区の各児童館や白根学習館等で活動していますが、白根北児童館での活動は『にゃんこの手』と命名し、4年前から活動を始めました。家に閉じこもりがちな親子から気

軽に参加してもらい、オーエンジャーや参加者同士で子育ての悩みや相談を聴くことを目的に実施しました。内容は、お茶やお菓子を出しながらハンドトリートメントやスイーツデコ等を提供し、今年度は4回の開催となりました。参加した母親は気楽にオーエンジャーや職員に話しかけたり、母親同士もお茶を飲みながら楽しく交流している場面が見られました。中には、「スイーツデコが楽しかったからまたやってほしい」と要望があり、「ママハピ」で再度実施しました。

オーエンジャーによる活動を児童館の中で継続的に行うことで、利用者が普段の職員と違う目線の人との交流する機会を持つことができ、保護者も職員も新たな視点に気付くことができる大切なひとときとなっています。

⑥ 移動児童館・園外保育・年長児交流会

乳幼児の移動児童館では、昨年同様に大鷲保育園の年少～年中児を対象に各クラス計2回と、大通保育園からも依頼を受け、年少～年長児を対象に各クラス計3回実施しました。内容はカプラを使った遊びを提供しました。カプラの魅力を伝えるために、導入で「ナイアガラ」や「マウンテン富士」の作品を見せると、子どもたちは目を輝かせながら見てくれました。基本の「寝る・起きる・立つ」の置き方やカプラで遊ぶ時のルールを教えた後、実際に子どもたちの好きな作品を自由に作ってもらいました。最後には「塔倒し」というゲームも行いました。チームに分かれて一人ずつ行くと、皆ハラハラドキドキしながら楽しんでいました。カプラは保育園にも置いてあるそうですが、「数が少ないためここまでダイナミックにできない」と先生方は話していました。子どもたちの創造力を伸ばす遊びでもあるので、普段児童館になかなか足を運べない地域に出向いて今後もカプラの素晴らしさを伝えていきたいです。

園外保育では、今年度は昨年同様にガ德里ュス・いぶき保育園と、新たに大通保育園の園児が利用がありました。新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、あかねこども園、こころんの園児も利用予定でした。園児たちは、グループに分かれて集会室、図書室、遊戯室の3つの部屋での遊びを楽しんでいました。保育園にはないおもちゃが沢山あるそうで、1時間の中で夢中になって遊んでいました。12月に行ったクリスマスミニコンサートに、ガ德里ュス・いぶき保育園の年長児、年中児、大通保育園の年長児が参加してくれました。

さらに、今年度新たに年長児交流会を実施しました。大通小学校に入学するガ德里ュス・いぶき保育園と大通保育園の年長児を招待し、混合のグループを作り、各ブースをグループで回り得点を集めるゲームを行いました。子ども達は初めてのお友達と逸れないように手を繋ぎ、相談しながら各ブースを回っていました。保育園の先生からは、「遊びの道具が手作り魅力的」、「もっと頻度を増やして欲しい」という声を聞くことができました。白根北児童館が地域の子どもの交流の核となるように、今後も考えていきたいと思えます。

⑦ 季節イベント

定例の乳幼児イベントの他に季節に合ったイベントも多く実施しました。春はじゃがいもやさつまいもの苗植え体験、7月七夕会とじゃがいも掘り体験、8月縁日ごっこ、10月ハロウィンとさつまいも掘り体験、12月クリスマス会、2月豆まき会と、それぞれの季節を感じながら月齢の低い乳幼児でも無理なく参加できる内容を提供してきました。今年度は予約制を設けずに行ったことから予定以上に多くの参加がありました。イベントでは、昨年から会場内に「写真スポット」を設けたところ大人気となり、母親たちはスマホで我が子の写真撮影を楽しんでいました。特にハロウィンやクリスマスでは仮装をしてくる子どもが多く、華やかに着飾った衣装でそれぞれ楽しんでいました。また、3月のひなまつり会では今年度新たに保護者向けに

ひなまつりクッキングを企画していました。ひなまつりの歌や工作を楽しんだ後、保護者はてまり寿司やいちご大福等を作る予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に中止になりました。今後も、その都度利用者の声を聞きながらイベントの内容を柔軟に変えていきたいと思っております。

⑧ 農園「ほくほくファーム」でのフリーゾーンの活用

2年前から、農園「ほくほくファーム」の一部を利用者に貸し出し、自由に農作物を育てられるフリーゾーンを提供してきました。おたよりで募集をかけたところ、2組の幼児親子から申し込みがあり、7月頃から開始しました。それぞれミニトマトや枝豆・オクラなど、育てたい苗を持って来てもらい、職員と共に植えました。時々様子を見に来ては子どもが水をあげたりし、収穫を楽しみにしている様子が見られました。収穫時には親子で大きく育った喜びを味わい、袋いっぱい採れた野菜を詰めている姿が印象的でした。

今年度は何気ない職員の会話からスイカの種を農園で育ててみました。それが予想以上においしいスイカがいくつもでき、秋祭りにスイカ割りをし、来館者に提供できました。畑や土との触れ合いが減っている今、利用者自身が苗植えから収穫まで体験する機会はとても貴重だと感じます。南区の宝である「農産物」と「子ども」を輝かせる取り組みとして、また、白根北児童館の特徴の農園活動の一環として、今後も継続していけたらと思っております。

(2) 来期の目標・課題

① 児童館 PR 活動の強化

初めて利用された方の話を伺うと、児童館の存在は知っていても「0歳～18歳までの子どもが利用できる」ということは知らなかったという方が大半です。まだまだ児童館の認知度は低く、今後も根気強くPR活動を行っていく必要があります。まずは利用された方との関わりを大切に、また遊びに来たいと思ってもらえるような雰囲気作りを心がけます。そこから紹介や口コミで利用者が広がるのが理想です。また、区外の利用人数が多くなっていることから、区外へのお便り配布、BP（親子の絆づくりプログラム、ベビープログラム）・NP（ノーバディーズパーフェクト～完璧な親なんていない～）を児童館で実施しPRに繋がれたらと思っております。地域の祭りやコミュニティ協議会主催のベビーマッサージ等にも参加して地域との繋がり、連携ができればと思っております。

② 多世代の交流

今現在、体格差による接触事故等のケガの防止を避ける取り組みとして、運動のできる遊戯室の利用時間を年代や人数で区切っています。しかしこれらのことにより、乳幼児と小学生・中高生との関わりが少ない環境になりやすくなってしまっています。関わりが薄れるとお互いが犬猿し合う様になります。それを防ぐため、乳幼児と小学生・中高生が関わり、お互いを理解し、認め合う必要があると思っております。

職員の見守りの中、ゆくゆくは兄弟のように遊べる環境になっていけたらと思っております。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度の小学生の延利用者数は7,742名と、今期も来館者カテゴリーの中で一番多い利用者数となりました。普段、平日の利用は低学年が多く、下校時間の関係で高学年は足を運ぶのが

難しかったようです。それでも、土日や長期休みになると自転車や送迎等で多くの小学生が遊びに来てくれました。主な遊びとして、ドッジボールやバレーボール、バドミントン、卓球、野球、一輪車等で元気に身体を動かしたり、集会室でレゴブロックやボードゲーム、ぬり絵などで静かに遊んだりとそれぞれの過ごし方を楽しんでいました。夏休みには高学年が、その時来館している「小学生全員でドッジボールをやりたい」と職員や小学生全員に声をかけ、自分たちでチーム決め、ルール確認等を自分たちで進行していました。その後、違う学年で交流する姿が多く見られるようになりました。

ルールが学年により違ったり、遊び方が分からない子に対して気持ちのぶつかり合いや思いのすれ違いなどからトラブルもありました。その後、職員を交えて「なぜそうなるのか、どうしたらいいか」を話し合いました。そこから『子ども会議』がスタートしました。遊戯室で遊ぶ前に「ルール確認を行う」、皆が楽しく遊べるようにチームメイト全員がボールを投げられるように譲り合う「思いやりドッジボールを行う」等、子どもたちから多くのアイデアが生まれました。

普段の遊びの中で子どもたちは相手への思いやりや言葉遣い、協調性を少しずつ学びながら日々成長していきました。また、今年度は子どもたちの成長を長年見てきた職員が、子どもたちの変化に気づき、困難を抱える親子を把握できました。長年子ども達と関わりアンテナを常に張っていた結果、子ども達の変化に気づき、声をかけ、様子を伺い、学校と連絡を取り合い、健康福祉課や民生委員の方々とは繋ぐことが出来ました。今後も子ども達、その家族のよりどころになれるよう、子どもたちと関わりを大切に、成長を共に感じていきたいと思えます。

① わくわくタイム

毎週水曜日の16時30分から30分間、小学生を対象に遊戯室で身体を動かす遊びやレクリエーションを行いました。今年度は月1回、継続的に地域のサッカー教室の監督がボランティアとしてボールを使った遊びを提供して下さいました。その他の週も、週ごとに大まかな遊びの内容を決めておき、当日子ども会議をしてから実施しました。第1週は鬼ごっこやリレー・第2週はボールを使った遊び・第3週はドッジボール・第4週は子どもたちで決めるというように分けています。特に第4週は内容を決めるところから始まるので、それぞれの意見がまとまらずにほぼ遊べないということもありました。それでも子どもたちは時間をかけながら相手の意見を尊重し、どうすればみんなが楽しく遊べるかを考えました。10月から3月までは、小学生の退館時間が17時になることから開始の時間を15分繰り上げて実施しました。冬季期間は、来館者数自体が少ないのですが、わくわくタイムを目掛けて来館してくれる子もいました。

② 工作タイム

工作イベントとして、毎月第3土曜日の14時～15時に『工作タイム』を実施しました。工作では、身近な素材を使った工作遊びを通じて、物を作る楽しさ、作ったもので工夫しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ることが目的としています。材料は段ボールや紙皿など、ほとんどが廃材や身近な材料で行いました。今年度は自由工作を実施すると、それぞれ廃材から色々なものを想像し、オリジナルの工作ができ、創造力や工夫が見られました。

③ クッキングタイム

食生活改善推進委員である職員が関わったことにより、今年度新たに『工作タイム』の中に『クッキングタイム』も取り入れました。大通コミュニティセンターを利用し、2か月に1回のペースで行いました。メニューはそれぞれ、7月パッククッキング、9月お好みロール、11

月スイートポテトとアップルパイ、そして12月にはライスピザを作りました。各班に食生活改善推進委員のスタッフが付き、包丁の使い方や皮の向き方、お皿の洗い方など丁寧に教えてもらいました。パッククッキングでは、ビニール袋の中に材料を入れてお湯を沸かした鍋に袋ごと入れて煮込むため、鍋は汚れず、水は再利用が可能になります。これは防災訓練の一環にもなりました。

④ メーンイベント

児童館のメインイベントとして、ハロウィンパーティー、クリスマス会（コンサート）、豆まき会等の季節のイベント、秋まつり等の祭りイベントを開催しました。（3月のイベントひなまつり会、春まつりは新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い臨時休館の為中止）今年度は暑さによる熱中症対策の観点から、夏まつりを秋まつりに変更しました。オープニングに地域のダンスチームをお招きし、フラダンスや、ヒップホップダンスを披露してもらいました。館内ではスーパーマリオのゲームをイメージした遊びを用意しました。外では農園で採れたスイカでスイカ割りをし、残暑の厳しい日でしたが、来館者数は過去最高になりました。また様々なシーンで「職員のお手伝いをしたい」と言ってくれる子どもたちもいました。子どもたちには、準備の際にスタンプカードの紐を切ってカードの穴に通す作業や、カードが切れないように補強のテープを貼る作業等を行ってもらいました。

季節のイベントでは、クリスマスコンサートでガデリュス・いぶき保育園と大通保育園の園児を招待したことにより、小学1年生が保育士と久しぶりに再会し、成長した姿を見てもらったり、普段元気に遊んでいる子どもたちが保育士の先生方に甘える姿も見られました。卒園し交流が薄れた地域の信頼できる大人（保育士）と再度ゆっくりと交流して、情緒を落ち着かせている子どもたちの姿を見て、地域と子どもが関われる環境づくりが出来たと実感できた一面でした。

⑤ 移動児童館

移動児童館は児童館を知ってもらうこと、様々な遊びを通して心身共に豊かに成長していく環境づくりを図ることを目的としています。昨年、大鷲小学校の文化祭で職員が魔女の格好で行った行事からリクエストをもらい、4年生の学年行事に「マジョーナのキャンドルづくり」を行いました。親子で蠟を溶かし、クレヨンで色を付け、型に流して固まるのを待ちました。職員が魔女の格好で待ち構えると、「マジョーナが来た」と子ども達は大喜びで、キャンドルづくりに取り組んでいました。その他、6月に大鷲小学校の1年生の学年行事に親子レクリエーション・同月の大鷲小学校1、2年生にカプラ・11月に根岸小学校の文化祭でカプラを提供しました。移動児童館を継続していることにより、カプラに取り組む子ども達は慣れた様子で大作にチャレンジしていました。限られた時間で形になると誰もが満足した様子でした。普段なかなか児童館に行くことが難しい大鷲・根岸地域の小学生にとっては、児童館を知るきっかけにもなり、移動児童館を終えた後、土日に保護者と一緒に来館してくれた子もいました。

⑥ 地域住民によるイベント

今年度は、地域のボランティア2名の方からイベントを提供していただきました。1人は、地元でサッカーチームの監督をされている方で、月に1回「つまきさんと遊ぼう」という企画でボールを使った様々な遊びを提供してもらいました。もう1人は、地元でセーフティータップをされている方で、小学生に書き納め、書き初め会を職員と共に提供してもらいました。書道の基本を学んでいない子ども達が多く、自分の字に満足できない子ども達も、講師の方に

「ゆっくり書こうね。ここで一度止めてごらん」と言われると、みんな上手に書けるようになりました。来年度も地域の方と関われる機会を多く作っていきたいと思います。

(2) 来期の課題・目標

児童館が開館し9年目を迎え、子どもたちの中でも遊びやイベントが定着してきました。特にメインイベントでは、時間的・距離的な理由などから普段はあまり来館のない子ども達の参加も多く、改めて児童館で行われるイベントを楽しみにしている子どもが多いことを実感しました。今年度は6年生の来館が多かった反面、5年生の来館は少なく、来年度は高学年の利用が課題になりそうです。その為、今年度に引き続き、子ども会議やクラブ活動等を取り入れ、子ども達の思いや意見を尊重し、主体性を育む事を目的に、職員と共に作り上げる活動を大切にしたいと思います。

下級生は上級生の姿を見て学ぶ部分も多く、そこから生まれた関係性は普段の学校生活にも反映していきます。共にイベントを作り上げる楽しさや喜び、達成感などを味わい、今後の生活に繋げていければと思います。

3. 中学生・高校生事業

(1) 総括

中高生の年間利用時期は暖かい時期が多く、部活動帰りや週末にグループ毎で来館し3オン3コートでバスケットボールをしたり、遊戯室でバドミントンや卓球を楽しんだりする姿が多く見られました。中高生男子の遊びは、バスケットボールやバドミントン、卓球など身体を動かす遊びがほとんどでしたが、中高生の女子は館内で職員や友達とゆったりおしゃべりを楽しんでいることも多く、中には受験勉強をしている姿も見られました。児童館がいつでも気軽に立ち寄れる『居場所』になってきていることを感じます。

イベントでは、普段忙しくて来館自体が難しい中高生の現状を考慮して日にちを指定するのではなく月間や週間で行いました。期間が長い分、平日から休日までより多くの中高生がイベントに参加することができました。内容は、「チャレンジスポーツ」という月ごとにスポーツを変えて課題に挑戦するものに加え、職員と遊びで勝負するというイベントも開催しました。子どもたちの中で遊びを決めて職員に勝負を挑むというものです。単純ですが、職員と子どもが関われるきっかけにもなり勝負の後にも話をしたりすることができました。今後も、中高生にとって居心地のよい『居場所』となるようにイベントや普段の関わりを大切にしていきたいと思います。

(2) 来期の課題・目標

① 中学生・高校生の『居場所』作り

徐々に中高生の『居場所』になってきているとは言え、まだまだ児童館の存在を知らない子どもも多く、定着には至っていないと感じます。中高生の年代になると、学校の授業や部活動、習い事等で児童館に足を運ぶこと自体が難しくなります。忙しさに加えて人間関係や進路のことなど悩みが多くなる時期に、児童館が息抜きするための1つの『居場所』になればと考えています。そのために、児童館の決まりが厳しすぎず、中高生に合った環境を整えていく。まずは「児童館に行ってみようかな」と思えるような工夫をしていく必要があります。そして来館した時には職員が密に関わり、信頼関係を築くと同時に、イベントの内容も、スポーツ系に加

えて職員とのおしゃべりタイムや受験時期の学習応援タイム等を設けてお茶を飲みながらゆっくり話したり、勉強の息抜きをしたりするものを提供できればと思います。日々の忙しさなどからストレスフルな環境で過ごしている中高生の心の拠り所となるように、一人一人が過ごしやすい『居場所』作りをしていきたいと思っています。

② 職場体験・ボランティア実習の受け入れ

今年度も中学校のコーディネーターさんから中学1、2年生の職場体験の依頼があり、7月に実施しました。中学1、2年生女子6名が参加し、主に幼児と関わったり実際に絵本の読み聞かせをやってもらったりしました。生徒たちは絵本を選ぶところから行い、前日にお互いに読み聞かせの練習を何度も行ってから当日を迎えました。保護者も見ている中で、緊張しながらも皆一生懸命取り組んでくれました。児童館は乳幼児から中高生までが利用できることから、中学生と幼児が交流できる場所でもあるので、是非活用してほしいと願っています。今後も職場体験やイベントのボランティアなどで中高生に児童館の仕事を体験してもらい、将来自分の進路に役立ててもらえればと思います。